

江戸時代の忍城を歩く4 北から城内へ

江戸時代、忍城下への北の入口であったのが、現在の忍1丁目の六ツ門交差点付近にあった谷郷口でした。ここには谷郷口門が設けられていて、門番が明六ツ（午前6時）に門を開け、暮六ツ（午後6時）に門を閉めたことから、「六ツ門」と呼ばれていました。

この谷郷口門は、忍城が廃城となった後、明治22年（1889）に加須市の總願寺に移築され、同寺の黒門（西門）として現存しています。

谷郷口からは、北に向かって和田、上池守、南河原、北河原を経て妻沼へと通じる妻沼道と、西に向かって現在の県道弥藤吾行田線と同じルートで皿尾に抜け、持田を経て熊谷に至る熊谷道の二つの街道がありました。

また、熊谷道には、皿尾で長大道とも呼ばれたもう一つの妻沼道が合流していました。

二つの妻沼道が通っていた星宮地区は、古墳時代末期ごろに、埼玉県内最大規模の条里



総願寺の黒門

制（行田熊谷条里）が敷かれた、埼玉県を代表する歴史ある穀倉地帯で、江戸時代にはこの地域で取れた米だけを「忍蔵米」と呼んでいたとの話が残っています。この話の真偽は不明ですが、「忍蔵米」が評判の良い米であったことは確かです。嘉永4年（1851）、江戸で発行された「諸国豊作一覽」という米の番付に、「武州忍蔵米」が前頭の上位とかなり高い格付けとなっていました。また、江戸時代末期、江戸の酒屋から下奈良村（現熊谷市）の名主にあてた手紙に、「先に忍御蔵米を買付け頂きましたが、誠に格好なもので……と記されています。

谷郷口門は、星宮地区の穀倉地帯で取れた「忍蔵米」などを忍城下に運び入れた門でもあったようです。ここから運び込まれた「忍蔵米」は、愛宕神社脇の代官所を通じて行田町へ、あるいは三共石油元町給油所そばにあった地獄橋を渡り、帯曲輪を経て現在のホザナ幼稚園付近にあった忍城の米蔵へと運ばれたものと思われる。（※忍城物語は今回で終了です。）
（文化財保護課 中島 洋一）



このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



さきたま古墳公園内にある「移築民家」。江戸時代と明治時代に建てられた民家を園内に移築したもので、家の中を見学できるから、当時の生活の様子を知ることができるんだ。ここで、フラベえに質問！なぜ、古墳を中心とした公園に民家が公開されているの知ってる？

【フラベえ】（・・・）
もう、のんびり日なたぼっこしている場合じゃないですよ。園内にある「さきたま史跡の博物館」は、平成18年までは考古と民俗の博物館だったんだ。だから、古墳から出土した土器や埴輪を紹介するだけでなく、昔の農家も移築されているんだよ。

【フラベえ】知らなかったよ。もっと行田の歴史や名所を勉強して、行田博士を目指すね。

今月の表紙

1月26日、グリーンアリーナで第24回行田市なわとび大会が行われました。個人の部、団体の部に出場した市内の小学生282人は、自分たちの最高記録を更新することを目標に、時間とびなどの競技に臨みました。選手たちは軽快なリズムで跳び続け、さわやかな汗を流していました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

